

# 2024年度 北海道大学 前期 数学 理系

1

(1) 点 P と点 Q が一致するとき

$$\cos 2t = \sin t \text{ かつ } \cos t = \sin 2t$$

$$\therefore 1 - 2\sin^2 t = \sin t \text{ かつ } \cos t = 2\sin t \cos t$$

$$\therefore (\sin t + 1)(2\sin t - 1) = 0 \text{ かつ } \cos t(2\sin t - 1) = 0$$

$$\therefore \sin t = \frac{1}{2} \text{ または } \lceil \sin t = -1 \text{ かつ } \cos t = 0 \rceil$$

であるから、求める  $t$  の値は、

$$t = \frac{\pi}{6} + 2n\pi, \frac{5\pi}{6} + 2n\pi, \frac{3\pi}{2} + 2n\pi \quad (n \text{ は整数}) \quad \dots\dots(\text{答})$$

である.

$$(2) \quad \begin{cases} x = \cos 2t = 2\cos^2 t - 1 \\ y = \cos t \\ 0 < t < 2\pi \end{cases} \quad \text{を同時にみたす実数 } t \text{ が存在する} \quad \dots\dots(*)$$

ような  $(x, y)$  の集合が点 P の軌跡である.

(\*) の条件は、

$$x = 2y^2 - 1 \text{ かつ } -1 \leq y < 1$$

$$\therefore y^2 = \frac{1}{2}(x+1) \text{ かつ } -1 \leq y < 1$$

である. よって、点 P の軌跡は放物線  $y^2 = \frac{1}{2}(x+1)$  の  $-1 \leq y < 1$  の部分であり、

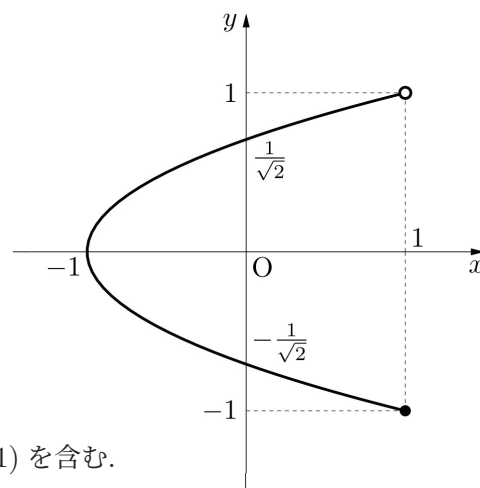
$$y = 0 \text{ とすると, } x = -1$$

$$x = 0 \text{ とすると, } y = \pm \frac{1}{\sqrt{2}}$$

であるから、右図のようになる. 端点は、点  $(1, 1)$  を除き、点  $(1, -1)$  を含む.

参考

(1) の解は、 $t = \frac{\pi}{6} + \frac{2n\pi}{3}$  とまとめることもできる.



2

「 $k$ 」が書かれた面を、 $k$ の面と呼ぶこととする( $k = 0, 1, 2, 3$ )と、試行を1回行ったとき、1, 2, 3の面が出る確率はいずれも $\frac{1}{8}$ であり、0の面が出る確率は $\frac{5}{8}$ である。

(1) 試行を $n$ 回行ったとき、持ち点が2以下となるのは、

- (i) 0の面が $n$ 回出る
- (ii) 0の面が $n-1$ 回と1または2の面が1回出る
- (iii) 0の面が $n-2$ 回と1の面が2回出る

のいずれかの場合であり、これらは互いに排反である。

(i) が起こる確率は、

$$\left(\frac{5}{8}\right)^n$$

であり、(ii) が起こる確率は、

$${}_nC_1 \left(\frac{5}{8}\right)^{n-1} \cdot \frac{2}{8} = \frac{n}{4} \cdot \left(\frac{5}{8}\right)^{n-1}$$

であり、(iii) が起こる確率は、

$${}_nC_2 \left(\frac{5}{8}\right)^{n-2} \cdot \left(\frac{1}{8}\right)^2 = \frac{n(n-1)}{128} \cdot \left(\frac{5}{8}\right)^{n-2}$$

である。したがって、試行を $n$ 回行ったとき、持ち点が2以下となる確率は、

$$\begin{aligned} & \left(\frac{5}{8}\right)^n + \frac{n}{4} \cdot \left(\frac{5}{8}\right)^{n-1} + \frac{n(n-1)}{128} \cdot \left(\frac{5}{8}\right)^{n-2} \\ &= \frac{50 + 20n + n(n-1)}{128} \cdot \left(\frac{5}{8}\right)^{n-2} \\ &= \frac{n^2 + 19n + 50}{128} \cdot \left(\frac{5}{8}\right)^{n-2} \end{aligned} \quad \dots\dots (答)$$

である。

(2) 試行を4回行って持ち点が10以上となる事象を $A$ 、試行を6回行って持ち点が17以上となる事象を $B$ とすると、求める条件付き確率は

$$P_A(B) = \frac{P(A \cap B)}{P(A)}$$

である。

$A$ が起こるのは、

- 3の面が4回出る
- 3の面が3回と1または2の面が1回出る
- 3の面が2回と3の面が2回出る

のいずれかの場合であり、これらは互いに排反である。したがって、

$$P(A) = \left(\frac{1}{8}\right)^4 + {}_4C_1 \left(\frac{1}{8}\right)^3 \cdot \frac{2}{8} + {}_4C_2 \left(\frac{1}{8}\right)^2 \cdot \left(\frac{1}{8}\right)^2 = \frac{15}{8^4}$$

である。

$A \cap B$ が起こるのは、

- 試行を4回行って持ち点が12となり、次の2回の試行で3の面が2回出る
- 試行を4回行って持ち点が12となり、次の2回の試行で3の面が1回と2の面が1回出る
- 試行を4回行って持ち点が11となり、次の2回の試行で3の面が2回出る

のいずれかの場合であり、これらは互いに排反である。したがって、

$$P(A \cap B) = \left(\frac{1}{8}\right)^4 \left\{ \left(\frac{1}{8}\right)^2 + {}_2C_1 \frac{1}{8} \cdot \frac{1}{8} \right\} + {}_4C_1 \left(\frac{1}{8}\right)^3 \cdot \frac{1}{8} \cdot \left(\frac{1}{8}\right)^2 = \frac{7}{8^6}$$

である。

以上より、求める条件付き確率は

$$P_A(B) = \frac{\frac{7}{8^6}}{\frac{15}{8^4}} = \frac{7}{960} \quad \dots\dots (答)$$

である。

3

$$(1) \quad a_{n+1} = \frac{1}{2}a_n + 1 \quad (n = 1, 2, 3, \dots) \quad \dots\dots ①$$

①を変形すると

$$a_{n+1} - 2 = \frac{1}{2}(a_n - 2)$$

となる. よって, 数列  $\{a_n - 2\}$  は公比が  $\frac{1}{2}$  の等比数列であるから,

$$a_n - 2 = (a_1 - 2) \left(\frac{1}{2}\right)^{n-1} = (\alpha - 2) \left(\frac{1}{2}\right)^{n-1}$$

となる. したがって,

$$a_n = (\alpha - 2) \left(\frac{1}{2}\right)^{n-1} + 2 \quad \dots\dots (\text{答})$$

である.

$$(2) \quad f_{n+1}(x) = (n+2)x^{n+1} + \left(\int_0^1 f_n(t) dt\right)x \quad (n = 1, 2, 3, \dots) \quad \dots\dots ②$$

について,  $b_n = \int_0^1 f_n(t) dt$  ( $n = 1, 2, 3, \dots$ ) とおくと, ②は

$$f_{n+1}(x) = (n+2)x^{n+1} + b_n x \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

となり, これより

$$\begin{aligned} b_{n+1} &= \int_0^1 f_{n+1}(t) dt \\ &= \int_0^1 \{(n+2)t^{n+1} + b_n t\} dt \\ &= \left[ t^{n+2} + \frac{b_n}{2} t^2 \right]_0^1 \end{aligned}$$

$$\therefore b_{n+1} = \frac{1}{2}b_n + 1 \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

である.

$$b_1 = \int_0^1 f_1(t) dt = \int_0^1 3t dt = \frac{3}{2}$$

であるから, (1)の結果を用いると,

$$b_n = \left(\frac{3}{2} - 2\right) \left(\frac{1}{2}\right)^{n-1} + 2 = 2 - \left(\frac{1}{2}\right)^n$$

となる. したがって,  $n \geq 1$  のとき,

$$f_{n+1}(x) = (n+2)x^{n+1} + \left\{2 - \left(\frac{1}{2}\right)^n\right\}x$$

であるから,  $n \geq 2$  のとき,

$$f_n(x) = (n+1)x^n + \left\{2 - \left(\frac{1}{2}\right)^{n-1}\right\}x \quad \dots\dots ③$$

である. ③に  $n = 1$  を代入すると

$$f_1(x) = 2x + (2-1)x = 3x$$

となるから、③は  $n = 1$  でも成り立つ。

以上より、

$$f_n(x) = (n+1)x^n + \left\{ 2 - \left(\frac{1}{2}\right)^{n-1} \right\} x \quad \dots\dots (答)$$

である。

4

$$(1) \quad |\overrightarrow{AB}|^2 = |\overrightarrow{OB} - \overrightarrow{OA}|^2 = |\overrightarrow{OB}|^2 + |\overrightarrow{OA}|^2 - 2\overrightarrow{OB} \cdot \overrightarrow{OA}$$

$$\therefore 25 = |\overrightarrow{OB}|^2 + 9 - 20$$

$$\therefore |\overrightarrow{OB}|^2 = 36$$

であるから、 $|\overrightarrow{OB}| = 6$ 、すなわち、辺 OB の長さは

6

……(答)

である。

(2) OI と AB の交点を C とすると、OC は  $\angle O$  の二等分線であるから、

$$AC : CB = OA : OB$$

$$= 3 : 6 = 1 : 2$$

である。これより、

$$AC = 5 \cdot \frac{1}{1+2} = \frac{5}{3}$$

であり、AI は  $\angle A$  の二等分線であるから、

$$OI : IC = AO : AC$$

$$= 3 : \frac{5}{3}$$

$$= 9 : 5$$

となる。よって、

$$\begin{aligned} \overrightarrow{OI} &= \frac{9}{14} \cdot \frac{2\overrightarrow{OA} + \overrightarrow{OB}}{3} \\ &= \frac{6\overrightarrow{OA} + 3\overrightarrow{OB}}{14} \end{aligned}$$

……(答)

である。

(3) H が辺 OA 上にあることより、実数  $k$  を用いて、 $\overrightarrow{OH} = k\overrightarrow{OA}$  とおくことができ、このとき、

$$\overrightarrow{HI} = \overrightarrow{OI} - k\overrightarrow{OA}$$

である。HI  $\perp$  OA より、 $\overrightarrow{HI} \cdot \overrightarrow{OA} = 0$  であるから、

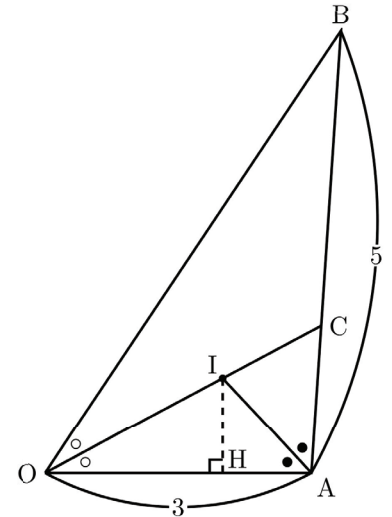
$$(\overrightarrow{OI} - k\overrightarrow{OA}) \cdot \overrightarrow{OA} = 0$$

$$\therefore \overrightarrow{OI} \cdot \overrightarrow{OA} - k|\overrightarrow{OA}|^2 = 0$$

$$\therefore k = \frac{\overrightarrow{OI} \cdot \overrightarrow{OA}}{|\overrightarrow{OA}|^2} = \frac{6|\overrightarrow{OA}|^2 + 3\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB}}{14|\overrightarrow{OA}|^2} = \frac{54 + 30}{126} = \frac{2}{3}$$

である。よって、

$$\overrightarrow{HI} = \overrightarrow{OI} - \frac{2}{3}\overrightarrow{OA} = \frac{3(6\overrightarrow{OA} + 3\overrightarrow{OB}) - 28\overrightarrow{OA}}{42}$$



であるから,

$$\vec{HI} = \frac{-10\vec{OA} + 9\vec{OB}}{42}$$

……(答)

である.

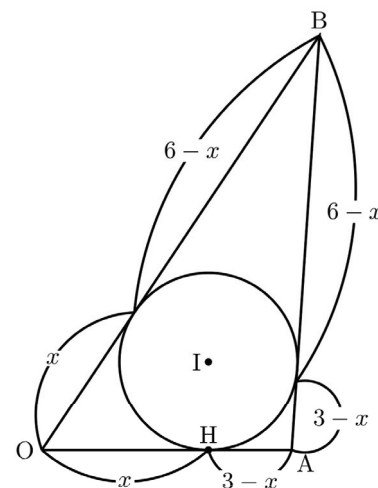
参考

(3) では, 図のように  $OH = x$  とおき,  $AB$  の長さに注目すると,

$$5 = (3 - x) + (6 - x)$$

$$\therefore x = 2$$

となることから,  $\vec{OH} = \frac{2}{3}\vec{OA}$  としてもよい.



$$(1) \quad f'(x) = \log(x+2) + \frac{x}{x+2}$$

であるから、 $t > -2$ として  $C$  の  $x = t$  における接線の方程式は

$$y - \{t \log(t+2) + 1\} = \left\{ \log(t+2) + \frac{t}{t+2} \right\} (x - t)$$

である。整理すると

$$y = \left\{ \log(t+2) + \frac{t}{t+2} \right\} x - \frac{t^2}{t+2} + 1 \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

となる。①が原点  $(0, 0)$  を通るとき

$$0 = -\frac{t^2}{t+2} + 1$$

であり、整理すると

$$0 = -t^2 + t + 2 \quad \text{すなわち} \quad (t+1)(t-2) = 0$$

となるから

$$t = -1, 2$$

である。ここで

$$f'(-1) = \log 1 + \frac{-1}{1} = -1 < 0$$

$$f'(2) = \log 4 + \frac{1}{2} = 2 \log 2 + \frac{1}{2} > 0$$

であり、 $l$  の傾きは正であるから、求める  $l$  の方程式は①で  $t = 2$  とした

$$y = \left( 2 \log 2 + \frac{1}{2} \right) x \quad \dots\dots \text{(答)}$$

である。

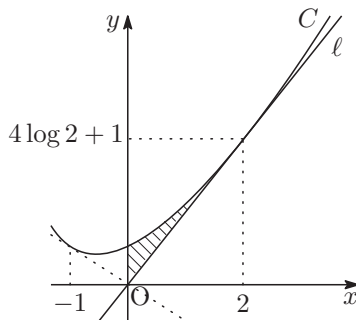
$$(2) \quad f'(x) = \log(x+2) + 1 - \frac{2}{x+2} \text{ を } x \text{ で微分すると}$$

$$f''(x) = \frac{1}{x+2} + \frac{2}{(x+2)^2} > 0 \quad (\because x > -2)$$

となるから、 $C$  は下に凸である。□

$$(3) \quad l \text{ の方程式を } y = g(x) \text{ とする。}$$

曲線  $C$  が下に凸であることと、 $l$  が  $C$  の  $x = 2$  における接線であることから、 $C$  と  $l$  は  $x = 2$  のみ共有点をもち、 $x > -2$  のとき常に  $f(x) \geq g(x)$  である。





したがって、求める面積を  $S$  とすると

$$S = \int_0^2 f(x)dx - \frac{1}{2} \cdot 2 \cdot (4\log 2 + 1)$$

である。ここで

$$\begin{aligned}\int_0^2 f(x)dx &= \int_0^2 \{x \log(x+2) + 1\} dx \\ &= \left[ \frac{x^2-4}{2} \log(x+2) \right]_0^2 - \int_0^2 \frac{x^2-4}{2} \cdot \frac{1}{x+2} dx + [x]_0^2 \\ &= 0 - (-2) \log 2 - \int_0^2 \frac{x-2}{2} dx + 2 \\ &= 2 \log 2 - \left[ \frac{1}{4}(x-2)^2 \right]_0^2 + 2 \\ &= 2 \log 2 - (0-1) + 2 \\ &= 2 \log 2 + 3\end{aligned}$$

であるから

$$S = 2 \log 2 + 3 - (4 \log 2 + 1) = 2 - 2 \log 2 \quad \dots\dots(\text{答})$$

である。

(別解) (3) の  $\int_0^2 f(x)dx$  は次のように計算してもよい。

$$\begin{aligned}\int_0^2 f(x)dx &= \int_0^2 \{x \log(x+2) + 1\} dx \\ &= \left[ \frac{x^2}{2} \log(x+2) \right]_0^2 - \int_0^2 \frac{x^2}{2} \cdot \frac{1}{x+2} dx + [x]_0^2 \\ &= 2 \log 4 - 0 - \frac{1}{2} \int_0^2 \frac{(x+2)(x-2) + 4}{x+2} dx + 2 \\ &= 4 \log 2 - \frac{1}{2} \int_0^2 \left( x-2 + \frac{4}{x+2} \right) dx + 2 \\ &= 4 \log 2 - \frac{1}{2} \left[ \frac{1}{2}(x-2)^2 + 4 \log(x+2) \right]_0^2 + 2 \\ &= 4 \log 2 - \frac{1}{2} \{0 + 4 \log 4 - (2 + 4 \log 2)\} + 2 \\ &= 4 \log 2 - 2 \log 4 + 1 + 2 \log 2 + 2 \\ &= 2 \log 2 + 3\end{aligned}$$